○1番（岡本真澄君）
1番、岡本真澄です。
部活動の地域展開について質問させていただきます。
令和6年3月、令和7年3月定例会におきまして、私は教職員の働き方改革についての質問の中で、当時の部活動の地域移行についてお聞きしました。
国の方では、令和5年度から7年度、改革推進期間いわゆる準備期間とし、前教育長よりも「できる部活動から前に進める」とのご答弁をいただいておりました。
現在は「地域移行」という名称が、学校と地域が相互にパートナーとして連携協働し、地域全体で子どもたちの活動の場を広げて支えていく「地域展開」という呼び名へ変わりました。
また、令和8年度から10年度を改革実行期間前期とし、休日は原則すべての部活動で地域展開し、平日も推進、令和11年度から13年度を改革実行期間後期とし、中間評価を経て、本格展開をするとの国の方針が出ておりますが、都会と地方とでは、受け皿となるスポーツクラブの数自体も大きな差があります。
今年度からが、今までの体制から新しい体制と変わる過渡期ということもあり、現段階で土庄町のみならず、全国的にも問題点が挙がっております。
実際に地方で地域展開が可能なのか、指導員を確保できるのか、少子化に伴う活動可能な部活動はどうなっていくのか。
保護者の負担増など、生徒や保護者、教師や指導者の目線からは、さまざまな指摘が挙げられているように、ニュースや新聞などからも見受けられます。
そこでお伺いいたします。
少子化に伴うチーム数の減少で、島外への部活動の遠征、公式戦や練習試合にかかる交通費が増加し、今後においても、保護者の金銭的負担増が懸念されます。
島の子どもたちが家庭の状況に左右されず、部活動や地域クラブで等しく挑戦できるよう、体験機会の格差を防ぐための交通費支援など、公的支援の現状やあり方についてのお考えを教えていただけるでしょうか。
○議長（濵野良一君）
教育総務課長　堀康晴君。
○教育総務課長（堀康晴君）
岡本議員のご質問にお答えいたします。
土庄町は島しょ部という地理的条件から、生徒が島外での大会や練習試合に参加する際、フェリー運賃や交通費などの負担が、他地域に比べて大きくならざるを得ないことは承知しております。
これまでも、県大会、四国大会、全国大会等への出場に際しては、交通費、宿泊費、荷物の輸送費等の補助を行ってまいりました。

今後、少子化等に伴い、部活動の合同チームや地域クラブチームが増えてくることが考えられる中で、児童生徒の活動機会を担保していくために、補助対象範囲や上限額など、支援体制のあり方を研究してまいりたいと考えます。以上でございます。

○議長（濵野良一君）

岡本真澄君。

○1 番（岡本真澄君）

では、練習試合についてはどうでしょうか。

○議長（濵野良一君）

堀課長。

○教育総務課長（堀康晴君）

岡本議員のご質問にお答えいたします。

練習試合につきましては、現在のところ補助はいたしておりません。

部活動によりまして、遠征先それから遠征回数、これらに差があることを考えますと、やはり公平性、こちらの方を公的支援を行う以上は考えなければいけないと、そのように考えまして、現在は補助をしていないという判断を下しております。以上でございます。

○議長（濵野良一君）

岡本真澄君。

○1 番（岡本真澄君）

確かに課長がおっしゃられるようにすべての練習試合までの補助は、文化部もございますので、難しい事情はわかります。

しかしながら、保護者負担の増加は、遠征回数の減少による生徒の向上心の低下、衰退へとつながっていくと思われますし、土庄町教育基本大綱の理念でございます「豊かな心と体を育み、歴史と文化を大切にするまちづくり」と照らしても、費用を理由に、試合などの体験や経験の機会を諦めざるを得ない子どもが出ることは、部活動や地域クラブを通して、子どもたちの心と体を豊かに育む教育の機会均等の観点からも問題ではないでしょうか。

例えばですが、公式戦におきましては、国の推進事業や県の補助金などを活用できるのであれば、ぜひそちらを充てていただき、一方で、これまで行政の支援が届いていない保護者の負担となっている、練習試合の遠征費などについて、町として新たに公的支援をしていただくことや、公的補助のある地域クラブ活動の認定制度を推進するなど、お考えいただけないでしょうか。

○議長（濵野良一君）

堀課長。

○教育総務課長（堀康晴君）

岡本議員のご質問にお答えいたします。
議員のご懸念は最もなことでございまして、教育委員会としましても、非常に危惧をしておるところでございます。
昨年、一昨年と、土庄中学校の部活動の中には全国大会に出場するようなチームもございまして、われわれとしても非常に喜ばしい成果であったと思っております。
しかしながら、今後このように継続することは、厳しいのではないかとそのように思っております。
そういう中で、生徒の減少、遠征の減少による経験不足といいますのは、大きなハンディキャップになっていくものと思われます。
生徒たちに練習の成果を出す機会、スキルアップを促す機会、これらの確保は非常に重要だと考えておりますので、今後どういう支援ができるか、しっかりと考えていきたいと考えます。以上でございます。
○議長（濵野良一君）
岡本真澄君。
○1番（岡本真澄君）
はい。ありがとうございます。
非常に前向きなお返事ありがとうございます。
今まさに手探りの過渡期ですから、やりながらですね、新しい課題が出てくるのは当然だと思っています。
だからこそ、その都度現場の声を聞いて、試行錯誤しながら柔軟に支援の形を変えていく姿勢が大切かと考えます。
では、教育長にお伺いいたします。今後の部活動、生徒への支援をどのようにお考えでしょうか。お聞かせください。
○議長（濵野良一君）
藤原教育長。
○教育長（藤原一章君）
岡本議員の質問にお答えします。
これまで、この島土庄町の子どもたちが、地域の方々や教員の指導のもと、頑張って、全国大会や各種のコンクールで成果を上げてきています。
また、子どもたちにとって、スポーツや文化面での経験ややりがいが、本当に生きがいにつながる、また進路の選択につながると思っております。
今後もこの子どもたちが成果を出せるように、支援をしていきたいと思っておりますし、この島という地理的条件や保護者の経済的な面がハンデにならないように支援をしていきたいと思っております。
まずは、公式大会の出場については、今後もきちっと支援を続けていきたい。

先ほどから出てきております、練習試合についても、何らかの支援ができないか、前向きに検討したいと思っております。
地域クラブの認定の面とかさまざまな課題はありますが、関係者の声を聞きながら進めていきたいと思っております。以上です。
○議長（濵野良一君）
岡本真澄君。
○1 番（岡本真澄君）
ありがとうございます。
生徒の活動が制限されないように、対応を今後もお願いいたします。
それでは次の質問に移ります。
本年 5 月 6 日に福島県の磐越自動車道で遠征中の高校生を乗せたバスの大変痛ましい事故がございました。
報道では、運転していた男性が 2 種免許を持っていなかったこと、車両が貸切バスではなく、レンタカーであったこと、過去にも同じ高校名義で複数回レンタカーが、借りられていたことなどが明らかとなっております。
学校側とバス会社の説明にも食い違いがございまして、誰がどのような責任を負うのか、学校の安全配慮義務はどうなのか、損害賠償額など問題が多々あるように思われます。
そこでお伺いいたします。本町の安全管理体制の実態と、保護者の負担軽減及び安全な移動の確保に向けた、町有バスの有効活用について、練習や試合時における送迎バスの確保と安全対策をどのようにされているかをお願いいたします。
○議長（濵野良一君）
堀課長。
○教育総務課長（堀康晴君）
岡本議員のご質問にお答えいたします。
部活動の練習は、通常、中学校の体育館や運動場及び小学校の体育館を利用しているところですが、部員の減少に伴う小豆島中学校との合同チームも増えつつあり、現在は、野球、男子バレー、剣道部が、合同チームとして小豆島町の施設で練習、活動を行っております。小豆島町内施設での合同練習には、今のところ、保護者等に送迎をお願いしているところですが、練習場所や時間、送迎方法について両町で協議を行い、スクールバス等の運行等も検討してまいりたいと考えております。
次に、島外での試合等におきましては、安全管理を図るため、できる限り公共交通機関を利用するか、校長の承認を得て、営業自動車を借り上げるよう指導をしています。その場合、日程、行程、事故発生時の補償内容等について事前確認を行い、引率を行う教員は、当該車両に同乗し、シートベルトの着用、生徒の体

調不良等に目を配ることで、安全管理の徹底に努めております。以上でございます。
○議長（濵野良一君）
　岡本真澄君。
○1 番（岡本真澄君）
　安全管理を徹底していただいているということは確認できました。引き続きお願いいたします。
　先ほどの質問と重なりますが、まず、バスの借り上げは保護者負担が大きくなると思われますが、いかがでしょうか。
○議長（濵野良一君）
　堀課長。
○教育総務課長（堀康晴君）
　岡本議員のご質問にお答えいたします。
　おっしゃるとおり、バスの借り上げの費用は非常に大きなものとなっております。
　そのため、練習試合の相手の選択、こちらも工夫が必要だと思っております。
　電車や路線バスで行けることやジャンボタクシーを利用するなどの工夫をすること、こういったことで対応することが必要ではないかと思っております。以上でございます。
○議長（濵野良一君）
　岡本真澄君。
○1 番（岡本真澄君）
　島からですね、マイクロバスに乗って遠征をする場合は、保護者が運転すれば費用があまりかからないように思われますし、本町でも小豆島中学校との合同チームが増えている中、現在も保護者のボランティア送迎に頼っている状況でございます。
　しかし、個人の運転に頼り切ってしまうことや、万が一の事故の責任を考えると、保護者に委ねる今のやり方には限界があるとも考えられますが、この点いかがでしょうか。
○議長（濵野良一君）
　堀課長。
○教育総務課長（堀康晴君）
　岡本議員のご質問にお答えいたします。
　安全確保こちらが適切に行われている場合は、校長が承認すればマイクロバス等の遠征こちらも可能とはしております。
　しかしながら、保護者の承諾、あるいは万が一の事故、こちらに対する責任の

所在、これらを考慮した場合には、営業自動車会社に依頼をすべき、していただきたいと考えております。以上でございます。
○議長（濵野良一君）
　岡本真澄君。
○1 番（岡本真澄君）
　はい。ありがとうございます。
　現在ですね、国土交通省文部科学省からの通知でも、スクールバスや町有バスを地域クラブの送迎に無償運送として柔軟に活用することが強く推奨されております。
　教育委員会で議論していただいているとは思いますし、また法的な基準が整っているわけですから、引き続き協議検討しますで終わらせず、PTA や実際に送迎に悩む当事者の保護者の方々の声を聞くなどですね、安全の確保と負担軽減の両立も、現場の声を聞きながら試行錯誤して作っていくしかないと考えられます。
　子どもたちの安全な移動環境の確保に向けての教育長のお考えをお聞かせください。
○議長（濵野良一君）
　藤原教育長。
○教育長（藤原一章君）
　岡本議員の質問にお答えします。
　子どもたち、関係者の安全確保が何よりも大切であるということはわかっておりますし、と同時に、保護者の負担軽減についても、大変重要であると理解をしております。
　さまざまな検討を重ねていく上で、まずは小豆島町との合同チーム等について、スクールバスの運行等がどこまでできるか、その辺のところを検討を重ねてまいりたいと思っております。
　部活動地域展開連絡協議会、それから学校、それから PTA 関係者の声を聞きながら進めていきたいと思っております。
○議長（濵野良一君）
　岡本真澄君。
○1 番（岡本真澄君）
　はい。ありがとうございます。
　できる限り保護者の負担を軽減することと、安全確保をお願いいたします。
　最後にですね、指導者の確保と育成支援についてお伺いをいたします。地域展開を担う指導者の確保状況と、動画研修、eーラーニング等を活用した研修、相談体制、将来的な資格取得を含めた伴走体制についてどのようにお考えかお願

いいたします。
○議長（濵野良一君）
　堀課長。
○教育総務課長（堀康晴君）
　岡本議員のご質問にお答えいたします。
　部活動指導員については、土庄町スポーツ協会に所属している各スポーツ団体からの推薦、あるいはその部活動に加入している生徒又は保護者からの推薦を受け、校長が承認した場合に登録できるとしています。現在のところ、8 競技 15 の運動部活動と 1 文化部活動において 19 名の指導員が登録をされておりますが、現在はまだ不足している状況です。
　本年 6 月 8 日に開催した土庄町部活動第 1 回推進委員会においては、指導員増員の呼びかけを行いました。今後、平日での部活動指導を進めるうえで、指導員の確保は重要であり、確実に進めていきたいと考えています。また、委員会では、年間を通して指導方法や注意点などの研修を適宜設け、指導員の育成支援を実施しているところです。他市町では、研修にeラーニングを活用しているケースもありますが、本町では、研修会等の全体研修を通して、指導員としての資質能力を高めていきたいと考えております。以上でございます。
○議長（濵野良一君）
　岡本真澄君。
○1 番（岡本真澄君）
　本年度新しく指導員になられた方はおられますか。
○議長（濵野良一君）
　堀課長。
○教育総務課長（堀康晴君）
　新しく 2 名が登録されております。以上でございます。
○議長（濵野良一君）
　岡本真澄君。
○1 番（岡本真澄君）
　保護者の声を聞きますと、専門知識を持つ外部指導者に技術を教えて欲しいという期待がある一方で、普段のですね、子どもたちの様子を知っている教員が関わってくれると安心するという声もあります。
　島という限られた環境の中で、この両方を満たすためには、外部指導者の確保に加えて、希望する教員の兼職兼業につながる制度づくりが必要かと思います。
　現在の状況を踏まえ、サポートや環境づくりをさらにどのように推し進めていかれるのかお考えをお聞かせください。
○議長（濵野良一君）

堀課長。
○教育総務課長（堀康晴君）
岡本議員のご質問にお答えいたします。
部活動の地域展開を推し進めていく上で、より一層、部活動指導員に積極的に関わっていただきたいとそのように考えております。
普段学校生活で関わっている教員や、意欲的に指導したいと考えている教員に、引き続き指導を続けてもらうためには、兼職兼業の制度づくり、こちらが重要となります。
部活動、地域展開、コーディネーターを中心に、スポーツ協会、文化協会と連携をとり、教員の声を積極的に取り入れながら、制度づくりに取り組んでまいりたいと考えております。以上でございます。
○議長（濵野良一君）
岡本真澄君。
○1番（岡本真澄君）
はい。ありがとうございます。
昨年までですね、部活動の地域展開を担当されていました教育長から、今後の土庄町の部活動の地域展開についての見通しや問題点をあればお願いいたします。
○議長（濵野良一君）
藤原教育長。
○教育長（藤原一章君）
はい。岡本議員の質問にお答えします。
令和5年より、学校関係者、保護者に子どもも含めてですね、アンケートを取り説明会を行ってきました。
また、町内のスポーツ協会、文化団体に説明をして協力を促し対応してきました。
その結果、部活動指導員を採用して支援をしてきているわけですが、なかなか数としては、十分とは言えません。
しかし、町内の子どもたちが、やっぱり自分がやりたいスポーツそれから文化活動について希望が叶えられるように、地域全体で支えていくために、この部活動地域展開は、とても重要だと考えております。
やはり課題としましては、第1に部活動指導員がまだ足りておりませんので、ぜひスポーツ団体、文化団体にも協力を仰いで、増員したいと考えています。
それから、2点目は、やっぱり先ほどから出ておりますが、経済的な支援で子どもたちや保護者が困らないように、支援をしていきたいと思っておりますが、これに関しましては、町単独ではなかなか限界がありますので、国、県の補助制

度をどこまで使えるかきちっと考えていきたいと思っております。
3 点目はやはり子どもたちの数の減少に伴うチーム数の減少とかに対しての対応ですが、これはやっぱり小豆島町を中心に他の市町と協力をしながら、合同チームとか、そういうチームづくりを考えてやっていきたいと思っております。
プラスの面としまして、土庄町で頑張っておられる教員の方で、大変まだやる気があるとか、それから本当に指導力の高い先生方がたくさんいますので、そういう先生方の力は、ぜひ今後も生かしたいと思っています。
そのためには、この土庄町なりの兼職兼業のあり方、その組織づくりがとても重要かなとは考えております。
また、子どもたちがやっぱりこの島、この土庄町の子どもたち自体が、本当にポテンシャルが高いし、素直な子どもたちが多いので、その子どもたちの良さをますます生かせるような取り組み、あるいは指導体制を考えていきたいと思っております。
いずれにつきましても、部活動地域展開推進協議会、それから学校、それから保護者の声を聞きながら進めたいと思っております。以上です。
○議長（濵野良一君）
岡本真澄君。
○1 番（岡本真澄君）
はい。ありがとうございます。
町としても独自の持続可能な形を模索して試行錯誤を重ねられておられること、昨年まで現場の第一線で頑張っておられたその地域展開を担当されてきた教育長だからこそ、今後の見通しや課題、そして子どもたちや指導者に対する熱い思いもわかりました。
ぜひですね、今後も子どもたちのために、よりよい地域づくりのためにも、持続可能な形になるようにお願いし、私の質問を終わります。